

令和4年度 第2回自治基本条例推進委員会 議事録

日時	令和4年8月29日(月)午後1時30分から2時30分
会場	焼津市役所本庁舎 会議室5B
出席委員(6人)	松下委員長、小長谷委員、寺本委員、児玉委員、中野委員、保科委員、向坂委員
欠席委員(3人)	鈴木副委員長、奥山委員、北畠委員、
事務局出席者(4人)	櫻井課長、緒方主幹、池ヶ谷主任主査、宮澤主査
傍聴者	なし
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 挨拶 3 議事(1)自治基本条例の見直しに関する提言書の最終確認について (2)令和4年度まちづくり市民集会について 4 その他
発言者	発言内容
櫻井課長	<p>本日は大変お忙しい中ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。ただいまより令和4年度第2回焼津市自治基本条例推進委員会を開催させていただきます。私は本日司会をつとめさせていただきます、市民協働課長の櫻井でございます。よろしくお願いいたします。なお、奥山委員、北畠委員、鈴木委員が本日の会議に欠席する旨、ご連絡をいただいておりますのでご報告させていただきます。それではこれより議事に入らせていただきます。松下委員長、進行をよろしくお願いいたします。</p>
松下委員長	<p>それでは議題の1「自治基本条例の見直しに関する提言書の最終確認について」です。今日は最後なので内容の変更は無いと思いますが、また来年以降も頑張っていこうということなので、最終確認をまずしたいと思います。事務局よりお願いいたします。</p>

緒方主幹	<p>「自治基本条例の運用状況の点検および見直しに関する提言書」で、前回お話をさせていただいたように、今年の10月までに条例の見直しを行うことになっておりまして、昨年度から、推進委員の皆さんにいろいろとご意見をいただけてきました。そうした中で、前回、見直しに関する提言書案を事務局でまとめたところですが、それについて、ここを修正した方がいいんじゃないかというご意見をもとに、今回修正案ということで、直させていただきました。修正箇所は、2ページの3「今後の取組の方向性、積極的に取り組むべき事項について」の課題がわかりにくかったということと、あと提言書は抽象的ですが「こうなったらいいね」で終わってしまうので、具体的にできそうなことを一つ実現できる方向で考えていったらどうかというご意見をいただきましたので、(2)の今後の取組の方向性の具体例のところ、この前もお話がありましたオンラインによるミニ集会について、実施計画案を作成したところです。デジタルというツールでつながる、ということと若者のまちづくりへの参加を促す目的もあります。こちらにつきましては、市民集会実行委員会の意見も伺わなければなりませんし、事務局も準備は必要ですが、委員の皆様がご提言して下さったことが一つでも実現に結びついたらいいな、ということで考えたものです。それから、4ページの指針2の具体例のところ、皆様のご意見より「地区ごとに交流できる場所づくり」という例の一つ追加しました。今ちょうど、公民館のあり方などを検討しておりまして、また、地域のリーダーを育成する講座なども実施する予定ですので、今後タイムリーでこの提言書の実現に向けて進んでいくのではないかと思います。この後、先日の実行委員会の報告もさせていただきますけれど、実行委員会のなかでも地域コミュニティが希薄になっている今、地域の人が集まる場であったり、地域の架け橋になってくれるような、人と人との繋がりが大事だね、というお話もしてきましたので、このような提言書の内容で市長まで持っていきたいと考えております。</p>
松下委員長	では、それほど時間もかからないと思うので、ここで提言書を読んでみてください。
緒方主幹	(読み上げ)
松下委員長	条文を改正する作業よりも、今までやってきたことをジャンプしていく繋げていくことの方が意味があると思います。では、表現など、気になるところがあったら言ってください。
松下委員長	4ページ最後のところ、主語述語の話しですが、「本市の自治基本条例は、市民は幅広く捉えられている」は「市民を幅広く捉えている」ですね。「捉えられている」なら、「自治基本条例では」のどちらかですね。お任せします。
	(他に発言無し)
松下委員長	では、これで提言してもらいたいと思います。それで、先ほどの実施計画案のオンラインでの市民集会ですが、検討するにあたって、こうしたらいいなじゃないか、といったアドバイスももらったらどうでしょう。実施計画案をどんなふう考えたか教えてください。
緒方主幹	<p>前回、市民集会をオンラインで1回やってみてつながることを実感したので、これでやめるのももったいないですし、若者のまちづくりの参加を促したいということで企画しました。時期については、実行委員会の方でも、再来年、条例施行10周年を迎えるので、記念事業をやったかどうかという話があって、それに合わせてやれたらいいかな、というところで話しが終わったんですけども。やるとしたら、最初はそんなに多人数じゃなく、実行委員の皆さんと学生たちや若い人で考えています。前回、委員長が高知市のインターンの話しをしてくれたので、市役所に入庁を希望する学生さんも、募集しやすいのかなと思っています。</p>
松下委員長	参加すると面白そうですね。
緒方主幹	あと、これから準備しなければならないのですが、スケジュール調整ですね。来年だと市民集会を終えてからでは直後で準備期間が短いですし、実行委員会の方たちの了承も得なければなりません。事務局もZoomの操作方法を習得しなければなりませんので。
松下委員長	<p>そもそも、何のためにやるのか、一回考えないといけないと思う。市民集会としてやるのか、地域の人たちの新しいツールとしての集会のオンライン化がメインだとすると、市民集会ではない。リアル集会のデジタル版なのかどうなのか。もし地域のオンライン化の方ならメインは研修会で、研修後、ちょっと実践してみようね、というのが最後。どっちがいいかっていうことがあると思うし、率直に言って、市民集会のリアル版は、結構もうパターンできていて、これにもう1個加わるとなると負担じゃないかと思う。これは皆が得意とは限らないので。市民集会に更にもう一個というのは、どうなのかな、って感じます。皆さん、どうでしょう。</p>
寺本委員	例えば、来年の8月のミニ集会の内容を再来年1月の市民集会に活かす形にして、また、学生を対象にしたら、その次は他の分野の20名を対象にするとか。市民集会をメインに結びつけるとよいか、と思いました。

松下委員長	市民集会の位置づけだとすると、意味はありますね。
保科委員	オンラインでやることをやりたいという感じですよ。オンラインの市民集会でせっかく繋がったから、オンラインでやりたいよって、考えたのかなっていうふうに思いますが。
松下委員長	オンラインが結構面白いという意見が出たから、それで、とにかく試してみるくらいの感じでね、試してやってみて、これやったらもうずっとやるとかじゃなくて、みんなが参加できそうな、面白いことをやればいいと思う。市民集會に結びつけるなら、寺本委員の意見ですね。
保科委員	高齢者は高齢者の問題があるかもしれないというところの、オンラインでできるものがあったら、ここここが一気に繋がらなくてもよくて。市民集會では皆一緒なので、ミニの方は個別になっても面白いのかな。
松下委員長	私はオンラインでたくさん研究会をやっていますが、ほとんど準備なしで、市民集會みたいな詳細なスケジュールもなく、その場限りです。むしろ大事なものは事前のPRで、あとはそんなに負担をかけてやる必要はないと思っています。だから、とにかく1回理屈なしにやってみようよ、ってそんな感じですね。そうじゃなくて、自治会のデジタル化をしたいのなら、研究会を行ったり本格的な仕組みを作らなければならない。市民集會の前哨戦だったら、寺本委員のご意見のとおり。正直、関連付けは難しいと思う。難しいと思うけどそういうふうにしなないと、市民集會の人たちがやる意味がないので。何でやるの？っていう。私は、募集に力を入れて、気楽にやったらどうかと思う。募集は、こんなのあるよってということが大事だと思っています。実際参加する人は少なくてもいい。若い人を混ぜて。そうすれば、その人たちが市民集會とかいろいろ繋がっていく可能性があると思う。
兒玉委員	市民集會実行委員会でこれをやることはできないと思う。やるならミニ市民集會実行委員会みたいの作って、定期的に毎月2回とかね、2ヶ月1回とか年間で活動して。
松下委員長	そういう実行委員会ならやってみたい、っていう人もいるかもしれない。若い人とか。そういうふうには、別の方が新規開拓にもなるかもね。これ失敗はないから。やって失敗はないから。ズームはやりたいけど、設定がよくわからないとか、そういう人がいるから、それをサポートする機会を作ってもらってね。専門業者に研修を委託するような、そんな難しい操作するわけじゃなくて、ただ設定できて、自分で参加できればそれでいいと思うんだよね。PRと設定は、市の方をお願いしたい。人が増えてきたらね、そのサポートのための応援部隊で、若い人たちのサポート隊みたいなのができるといいですね。
向坂委員	私たち年代にはハードルが高いけど、私の子供や若いお母さん世代はズームを簡単にやっています。だから、気楽に話していくよ、ってなるんじゃないかなって思います。私は藤枝の出身でして、小学生の頃、市の施設を見学するイベントのときに市長さんが突然、気楽な感じで来てくれて、芝生のところで「ここに座ろうよ」って突然ドカッとあぐらをかいて座って、座談会をしたんです。結構覚えてます。例えば市長さんとズームやろうよって、ラフな感じで呼びかけて、学生さんとか、赤ちゃんや小さな子供がいて外出できないお母さんに、気楽に話せるよって呼びかけたら参加してくれてるんじゃないかなと思います。ただ、昨年度の市民集會のズーム講習会のとき、私はスマホを持ってきて講習を受けたのですが、パソコンを持ってきてセッティングしている方もいて、そうするとちょっとハードル上がっちゃうかなって。私は気楽にやっていますが、幼稚園の母親学級や高校生とか、そういうところに声をかければ、ぱぱっとやってくれるんじゃないかな。
松下委員長	櫻井課長、市長が参加するというのはどうですか。
櫻井課長	市長は座談会をやっているのですが、そういう中に組み込んで、若い人たちと本当に気楽に繋がれたら面白いかな、と思います。
松下委員長	今年は難しいと思うけど、そんなことを視野に入れながら、というのが意見です。
小長谷委員	最初は集會の参加を目的にズームの講習をしていけばいいと思う。気楽にやればよくて、年が多い人も初めは難しいと思うが、私も慣れればどうってことはなかった。
松下委員長	実行委員会の方に話しちゃってるから、今更変更はできない、とかありますか。
緒方主幹	まだ、何かやらないか、という提案があっただけで、何も決まっていません。
松下委員長	では、実行委員会とは切り離して。
兒玉委員	実行委員会だと一年中になってしまうからできないよね。
中野委員	ズームに馴れるには、勉強会とか講習会ってすごく必要と思うんですが、例えば、ミュージコでオンライン配信をズームで見るといったのがあったんですけど、すごい音が悪くて。そういう最初はちょっと見るだけでもいいようなイベントやクッキングとか、そういうのも配信するか、市の方でズームに馴れる機会をたくさん作っていただけたらいいと思います。保健センターの料理講座も行かないと習えないけど、配信とかしてもらえると、取っ掛かりとしてはいいのかな、と。ズームは楽しいので。

松下委員長	一回やって、ああしたらよかったこうしたらよかった、もしくはやっぱり駄目だなとか、そういうふうを考えて、気楽にできる機会を作って。あまり考えすぎずに、いつでも相談してください。失敗はないから。
松下委員長	次は、議事の2「まちづくり市民集会について」です。
池ヶ谷	(市民集会実行委員会について報告 開催方法はリアルを基本とし、テーマはコミュニティが案であることを報告)
松下委員長	リアルでやるとしたら何人ぐらいでやりますか
池ヶ谷	60人で考えています。
松下委員長	じゃあ、前よりも間隔をとるんだね。170人位来ていたから、60人だと寂しくなるね。60人だとどうやって選ぶだろう。前回、毎回来る人は3分の1はいるという話で、楽しみだっている人もいるから。
兒玉委員	議員と自治会と一般ですよ。一般がそんなに呼べない。どんな構成にするのか。
松下委員長	三者が揃ってというのが前提だけれども、フルに参加するのか。
課長	絞る理由がコロナなので、コロナが落ち着けば、変わります。
松下委員長	9月の時点でわかるのかね。今考えても同じかな。
兒玉委員	広報には出せないね。
緒方主幹	広報は無理かな、って思ってます。今まではいろんなところで宣伝しましたが。去年も広報してないです。
兒玉委員	埋まっちゃうんだよね。実行委員の知人とか。同じ人ばっかの意見になって。
松下委員長	焼津の良さは高校生二十何人とか、高校生の参加があって、これは誇るべきことだと思うわけ。固定した人たちだけだとやる意味があるのかな。そのあたりも実行委員会で考えてください。同じメンバーだったら、わざわざ市民集会開かなくてもいいじゃない。新たに興味を持つとか、進学や就職で県外に出てしまう前の高校生のうちから関わってもらおうというというのがメインだと思うんだよ。人数絞ったとしてもね、こういう人たちに来てもらうにしなければ意味がなくて。やること自体が目的になっちゃったらしょうがないからさ。
中野委員	小ホールと他の会議会とかでもやる、というのはどうですか。ズームで繋がなくても、移動して。
櫻井課長	会場費がかかってしまうので、予算の問題があります。
保科委員	リアルでやろうという意味は、一会場にあると思います。二会場だと、リアルの意味が下がってしまうと感じます。60の根拠は何ですか。
緒方主幹	2メートルくらい距離をとって、机3本入れて計算してあります。2本でよければ、もう少し増やせるかもしれません。
兒玉委員	そこはまだ実行委員会で話してないよね。
松下委員長	他市の研修などに行くと、そこまでの距離はとってなくて、透明の衝立があって、丸くなって話ができるようになってる。そういうのがあればね。市でやることなので、一定の配慮は必要だから以前のようにはいかないと思うけど、今は2メートルまではとらなくてもよいのでは。健康チェックもやるんでしょ？ だから人数を増やせて意味じゃないです。非難されてはいけないので。人選をどうするか、というのを考えてほしい。推進委員会としては、いつものメンバーでやるならどうかな、というのが正直なところ。焼津高校は、コロナ禍で学校としてこういう場にはできないのですか。
櫻井課長	確認します。学校によっては対外的な行事に参加しないというところもあるので。
向坂委員	息子は、県外のオープンキャンパスには参加できました。
保科委員	今は、移動制限がありませんね。
兒玉委員	先週、コンサートに行ったが声援なしだけど、隣との間隔はなかった。
松下委員長	今のようなご意見も参考に、事務局の方で考えてみてください。以上です。
櫻井課長	委員長ありがとうございました。最後に事務局から事務連絡をさせていただきます。
緒方主幹	次回の実行委員会は、来年2月頃の開催を予定しています。追ってご連絡差し上げます。
櫻井課長	これを持ちまして第2回焼津市自治基本条例推進委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。